

阿波踊りにおけるコンクールの効果

—全日本大学阿波踊り選手権大会と学生連について—

The Effect of Contests in Awa Dance: In Case of All-Nippon Intercollegiate Championship Contest of Awa Dance and the Students' Groups

中村 久子

Hisako NAKAMURA

Faculty of Integrated Arts and Sciences University of Tokushima

ABSTRACT

Awa dance in the postwar period had been refined due to the contests held for several years. The contests held for several years in the postwar period contributed to the refinement of Awa dance. They also contributed to the birth of "reputed troops (yumei ren)" which belonged to the association. Many troops has been formed with these troops as the top of hierarchy. Seeking ideal dancing, the reputed troops practiced night and day, contrived ways to find better formation and movement and established the dance to show. On the other hand, students' groups had been seen as relieving stress and enjoying sense of solidarity instead of showing their skills of dancing.

In 1987, the first "All-Nippon Intercollegiate Championship Contest of Awa Dance" was held and it had been continued for 11 years since then. This study deals with the background or prehistory of this contest and the reasons why it ceased to exist.

The primary purpose for holding the intercollegiate contest was to enhance Awa Dance culture. But it also functioned as a measure against the groups of students who disturbed the spectators with too much excessive energy. One newspaper article showed this by quoting the words of a member of executive committee stating: it was organized to improve the image of students' groups which were frowned upon since many of the students danced under the influence of alcohol.

The reasons why the contest stopped 12 years after its start are: 1) it

achieved the primary aim, 2) it became stereotyped in a rut, and 3) due to budget curtailment. In place of the collegiate contest, "Intercollegiate Awa Dance Festival" was newly organized by the students themselves. In order to investigate how the dances of the students' groups were performed, the dances of three student groups which participated in the 2002 festival were videotaped and their formations and movements were analyzed.

As a result, their dances on the whole are found to be in no way inferior to those of the reputed troops. The roles played by these contests and festivals are noted to be very significant to raise the level of the students' dances as one newspaper article says, "They all performed serious-minded student dance."

Keywords : Awa Dance, variations of formation, variations of movement

I. はじめに

徳島県の盆踊りである「阿波踊り」は、数多くある日本の盆踊りと異なった実演形態をもっている¹⁾。その内の一つは、連と呼ばれるグループをつくって、踊りに参加することである。そのグループ（連）は各自の演奏集団を引き連れて、踊りに参加している。戦後の阿波踊りは、数年続いたコンクールによって、踊り方が洗練され²⁾、多くの連の中から有名連といわれる阿波おどり振興協会、阿波踊り協会等に所属するグループを生み出した。これらの連を頂点として、居住地域を共にする集団を中心として結成された連、職場の仲間を中心として結成された企業連、大学および同窓会を中心として結成された連、同じサークル活動のメンバーを中心とする連など多くの連が生まれた。

有名連は踊りの理想を求め、日夜練習に励み、動きや隊形を工夫してきた。一方、学生を中心として結成された学生連は上手に踊ることよりも、踊ることによってストレスを発散し、グループの連帯感を味わっているように見られてきた。

1987年にはこれらの学生連を集めて、「全日本大学阿波おどり選手権大会」が開催され、11年間続けられてきた。現在では「大学阿波おどり演舞大会」と名称を変えて開催されている。この学生による演舞大会のきっかけとなった「全日本大学阿波おどり選手権大会」というコンクールが開催された経緯と、11年間続けられた後に、演舞大会に移行した経緯を知ることと、現在踊られている演舞大会での踊りを分析することによって、この大会が学生連に果たした役割を明らかにすることができるのではないかと考え、本研究に取り組んだ。

II. 研究の方法

1. 聞き取り調査

日時：2001年6月～9月

対象：徳島市観光課、徳島市観光協会、徳島大学、四国大学、徳島文理大学の各大学学生連の関係者

2. 動きの分析

日時：平成 13 年 8 月 13 日

場所：徳島市藍場浜演舞場

対象：徳島大学建設工学連、四国大学連、徳島文理大学連

Ⅲ. 研究の結果と考察

1. 全日本大学阿波おどり選手権大会の開催の理由

「全日本大学阿波おどり選手権大会」は徳島市観光課の大会開催要項³⁾によると、「阿波おどりに参加する各大学連が一堂に会し、若者の持つ創造力とエネルギーを結集して、踊りとしての様式美や躍動感、チームワークを競い合う大学選手権を行うことにより、若者の祭りへの意欲的な参加を喚起するとともに、阿波おどり文化の向上を目指す」という目的で始められた。

しかし、当時の新聞記事に掲載された、学生実行委員の談話⁴⁾には、当時の学生達が酒を飲んで「ワッショイワッショイ」と掛け声をかけて踊る、などひんしゅくをかっていたために学生の踊りのイメージ・アップを意図して企画されたとある。エネルギーがありあまって他人に迷惑かける学生連への対策もあったと考えられる。酒を飲んで踊る学生連に対する批判はこの他の報道記事⁵⁾にも見られ、不評をかっていた学生連対策が目的であったことがうかがわれる。

また、徳島市観光課職員によれば、阿波踊りは夕方 6 時から 10 時まで開催されるが、当時は観光客用の昼間のイベントが少なかったため、この選手権大会は昼間のイベントとして企画されたということである。

2. 全日本大学阿波おどり選手権大会の歴史

「全日本大学阿波おどり選手権大会」は 1987 年に開催され 1997 年まで続いた。阿波踊り大賞には賞金 (十万円) が授与され、その他に阿波踊り金賞 (五万円)、ベスト男踊り賞、ベスト女踊り賞、特別賞、熱演賞、ユーモア賞などの賞に賞金や商品が贈られた。各年の結果は徳島市観光課に残された資料が限られていたため、当時の新聞から補い、その結果を表 1 にまとめた。主催は「全日本大学阿波おどり選手権大会実行委員会」、共催は徳島市・(社) 徳島市観光協会で、審査は審査委員長 1 名、審査員 6 名一般審査員 20 名から成っていた。

3. 全日本大学阿波おどり選手権大会打ち切りの理由

1997 年度の大会を最後に、「全日本大学阿波おどり選手権大会」は打ち切られた。その理由として、徳島市観光課及び大学の関係者からの聞き取り調査をまとめると以下のようになった。

- 1) 初期の目標をある程度達成したこと。
- 2) 受賞する大学が毎年同じになり、変わり映えがなくマンネリ化したこと。
- 3) 賞金などの予算の限界。(年間 80 万円の予算であった。)

打ち切られた理由の 1) については、若者の祭りへの意欲的な参加を喚起し、阿波踊り文化を向上させたということである。この大会についての新聞記事をいくつか拾い出し

表1. 第1回から第11回までの全日本大学阿波おどり選手権大会における受賞校・受賞者

年度 回	参加 連数	大賞受賞校	阿波おどり金賞	ベスト男踊り賞 ベスト女踊り賞	その他の賞
1987 1回	6大学 9連	四国女子大学連	徳大土木建設連 徳大たけのこ連 早稲田大学連	中山千世美 (四女) 日出有美子 (四女)	特別賞 柳井泰司 (徳大) 原田美保 (専修大)
1988 2回	5大学 7連	四国女子大学連	徳島文理大学連	李 圭太 (徳大) 小林明美 (文理大)	特別賞 (これでも阿波踊り で賞) 徳大たけのこ連 特別賞 (踊る阿呆賞) 真鍋昭洋 (徳大) 熱演賞 徳大土木建設連 ユーモア賞 宮本宜和 (専修大)
1989 3回	8大学 10連	四国女子大学連	徳大土木建設連	加藤佳子 (徳大) 亀井敦子 (四女)	特別賞 (これでも阿波踊り で賞) 早稲田・慶應合同連 特別賞・踊る阿呆賞 佐野達也 (阪大) 熱演賞 徳大こじか連 圏外賞 県立保専学院連 ユーモア賞 柴田健二 (阪大)
1990 4回	6大学 8連	徳大土木建設連	四国女子大学連	折野美紀 (四女) 亀井敦子 (四女)	特別賞 (これでも阿波踊り で賞) 徳島大学総科連 特別賞・踊る阿呆賞 桑原桂子 (文理大) 熱演賞 徳島文理大薬友連 ユーモア賞 久保康弘 (阪大) 圏外賞 早稲田大学連
1991 5回	5大学 7連	四国女子大学連	徳島文理大学連		
1992 6回	5大学 6連	四国大学連	徳島文理大学連		
1993 7回	6大学 8連	日大青二才連	四国大学連	松岡栄徳 (文理大) 岡本房子 (文理大)	
1994 8回	6大学 7連	四国大学連	日大青二才連	森 紀子 (四国大) 岡本房子 (文理大)	鳴り物 徳島文理大学連
1995 9回	5大学 6連	徳島文理大学連	日大青二才連		
1996 10回	6大学 6連	四国大学連	徳島文理大学連	岡 昇平 (徳大) 島尾留美 (四短大)	鳴り物 四国大学連
1997 11回	5大学 5連	四国大学連	徳島文理大学連	堀田直揮 (四国大) 常陸ゆか (四国大)	鳴り物大賞 四国大学連 踊る阿呆賞 陶久晴岳 (慶應大)

て検証して見よう。

第一回大会後の新聞記事⁶⁾に「県内外九大学から三百人が参加、七分の制限時間いっぱい汗びっしょりになって若さを爆発させた。インディアン踊り(徳大歯学部)、校歌合唱(早稲田大)など奇抜なアイデアも飛び出し、一般客も交じった栈敷席から手拍子や拍手が沸いた」と書かれている。奇抜なアイデアもあり、汗いっぱい一生懸命踊った感じは受けるが、特に工夫を凝らせたことも、上手に踊ったとも書かれてはいない。

しかし、第三回大会後の新聞記事⁷⁾には「それぞれ工夫を凝らした若さいっぱいの踊りを披露。ワッショイ踊りとは一味違った阿波踊りに寄せる心意気を見せた」と書かれ、それぞれに工夫を凝らして踊っていたことが窺える。また、酒の勢いでワッショイワッショイと掛け声をかけて踊っていた学生踊りからの脱却を目指していた学生たちの意欲を筆者が感じていることがわかる。

さらに、第四回大会後⁸⁾「構成に凝った連、おはやしに工夫を凝らした連など日ごろの練習を披露。大学連といえばワッショイ踊りといったイメージを一新して、詰め掛けた観光客から盛んな拍手を浴びた」と書かれ、動きの工夫のみならず構成にも目を向け、日頃の練習を感じさせる踊りが披露されたことが明らかになった。

最後の大会となった第十一次大会について書かれた新聞記事⁹⁾には「徳島県内外から参加した六大学(五連)148人が若さあふれる踊りを繰り広げた。(中略)団体の部では、各校とも踊りの型や並びに工夫を凝らして独自性を主張。有名連さながらに目まぐるしく隊列を変化させるところもあれば、総勢八人の小所帯ながら元気いっぱいの連もあり、九百人の観客を沸かせた」とあり、独自性を主張するなど有名連のように踊ることができる連が現れたことが明らかである。以上のことから、参加連数はわずかではあるが初期の目標は達成されたといえよう。

理由の2)のマンネリ化については表1から、同じ大学から常に受賞者を出すようになったことが分かり、学生たちが一生懸命に練習した結果とはいえ、主催者側から見ると、毎年、変わり映えのしない結果が続くこととなったのであろう。参加連数を見ると、参加連数の最高は

10連で、全日本と銘打った大会の割には学生連が集まっていない。しかも、第三回大会をピークに減り続け、少ない参加連の中で毎年同じ大学から受賞者が出たことで、マンネリ化したと言われるようになったと考える。

理由の3)は不況の風が吹いてきた時代を反映した結果であろう。聞き取り調査で、80万円の予算であったと聞いている。全日本と銘打った大会でありながら、参加連数の減少は徳島市の予算執行の適正化の上で問題になったのではないか。

4. 全日本大学阿波おどり選手権大会のその後

聞き取り調査の結果、「全日本大学阿波おどり選手権大会」が打ち切られるようになったとき、徳島市の三大学から技を競う選手権大会に代わり、練習の成果を発表する場としてこの大会を残してほしいという強い要望が出たことがわかった。学生たちの要望によって、選手権大会は1998年度から「大学阿波おどり演舞大会」と名称を変え、藍場浜演舞場で開催されることとなった。「大学阿波踊り演舞大会」の開催にあたり、徳島市観光課は会場を提供するだけで、運営は全て学生たちが行うこととなった。

「大学阿波おどり演舞大会」は現在まで続けられており、踊りの優劣を競い合うことより、練習の成果を発表し、各大学の友好の場となっている。

5. 演舞大会における阿波踊りの動きについて

平成13年開催の「大学阿波おどり演舞大会」における各大学連の踊りを収録した。収録した各大学の踊りを、隊形の変化と動きの変化が現れた順に図示した。

(○女踊り ●男踊り ●前向き ●後向き ●右向き ●左向き)

収録日時：平成13年8月13日

収録場所：藍場浜演舞場

対象：徳島大学建設工学連、四国大学連、徳島文理大学連

(1) 隊形の変化

1) 徳島大学建設工学連

① 男踊り

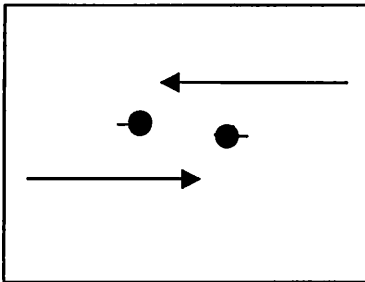


図1 徳島大学連 隊形 (1)

- 両側から一人ずつ走り出して入場。中央で跳び上がって静止する。
- その二人が踊り始める。

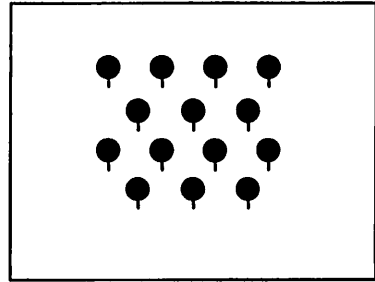


図3. 徳島大学連 隊形 (3)

- 横四列になって、前を向き、踊る。

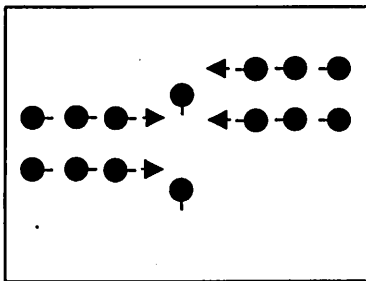


図2. 徳島大学連 隊形 (2)

- 両側から三人縦列で、各二列が踊り出て来る。中央の二人も同時に踊り、列に加わる。

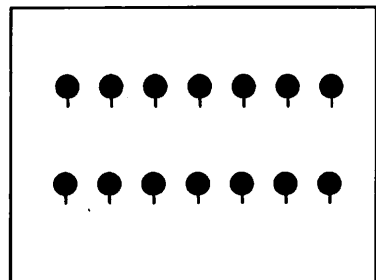


図4 徳島大学連 隊形 (4)

- 一列目と二列目が一緒になり、一つの列をつくる。同様に、三列目と四列目が一緒になり、一つの列をつくり横隊二列になり、前を向き、踊る。

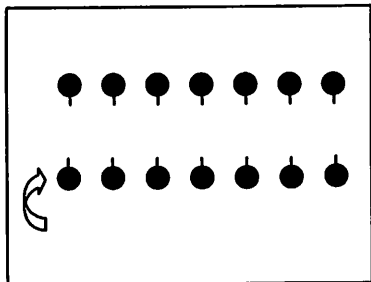


図5. 徳島大学連 隊形 (5)

- 前列が踊りながら右回りで後ろに向き、二列が向き合って踊る

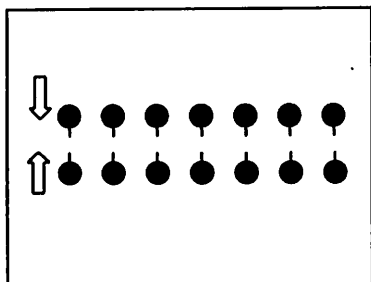


図6. 徳島大学連 隊形 (6)

- 前列、後列ともに踊りながら前進し、二列が近づく。

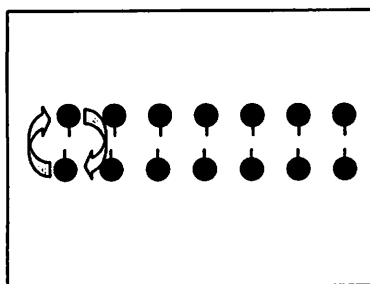


図7. 徳島大学連 隊形 (7)

- 踊りながら、前列と後列が入れ替わる。(右足を出すときに背中合わせ、左に回りながら入れ替わる)：変化した動き1。
- この変化した動きを4回繰り返す。

(変化した動き：カウント1,2で右

手右足が前進し、カウント3,4で左手左足が前進する阿波踊りのパターンを崩して、新しいまとまりを作った動きをいうことにした。一つの構成の中で出現した順に変化した動き1、変化した動き2をつけ、紙面の都合でその動きについての説明は省いた。)

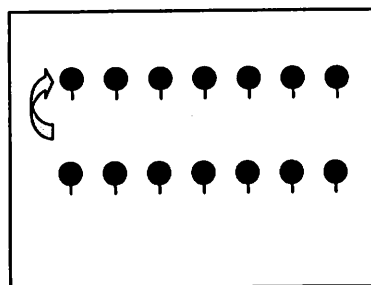


図8. 徳島大学連 隊形 (8)

- 後列は右回りで正面を向き、二列が揃って正面を向き、踊る。

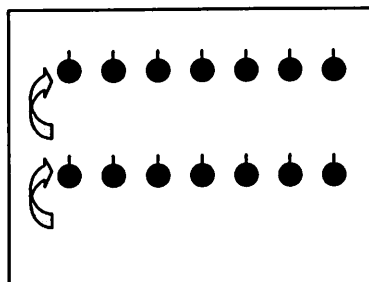


図9. 徳島大学連 隊形 (9)

- 全員が一斉に向きを変え、両手を広げ、重心を低くし、掛け声とともに静止する。
- お囃子の音を一齐に止める。

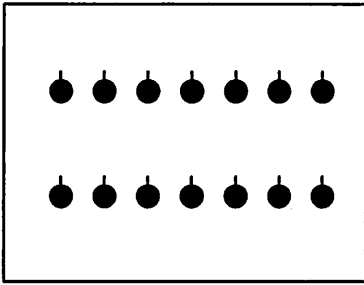


図 10. 徳島大学連 隊形 (10)

- 前列はポーズをとって、静止。
- 後列は**変化した動き 2**を踊る。**変化した動き 2**を踊り終わると両手を広げ、重心を低くして止まる。

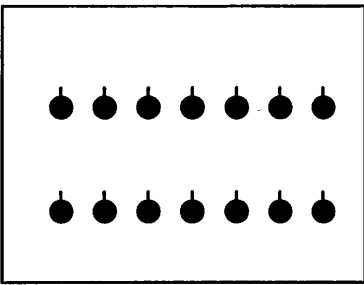


図 11. 徳島大学連 隊形 (11)

- 前列は**変化した動き 2**を踊る。**変化した動き 2**を踊り終わると両手を広げ、重心を低くして止まる。
- 後列は静止。

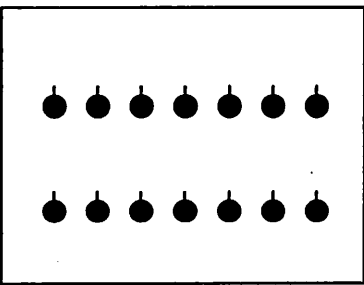


図 12. 徳島大学連 隊形 (12)

- 前列、後列全員が**変化した動き 2**を揃って踊る。

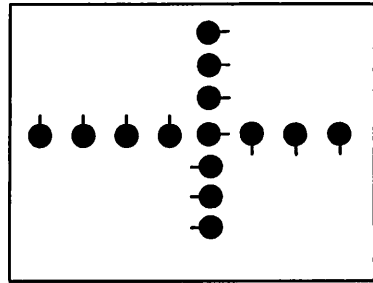


図 13. 徳島大学連 隊形 (13)

- 全員が踊りながら移動、十字の隊形になる。

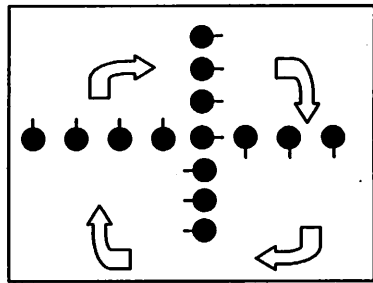


図 14 徳島大学連 隊形 (14)

- 十字の隊形を矢印の方向に回転するように前進する。

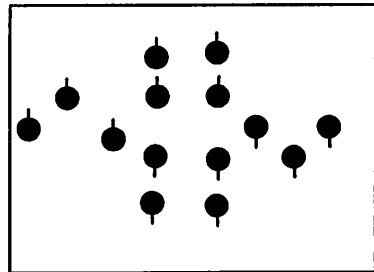


図 15. 徳島大学連 隊形 (15)

- 十字形の隊形から踊りながら隊形を変化。

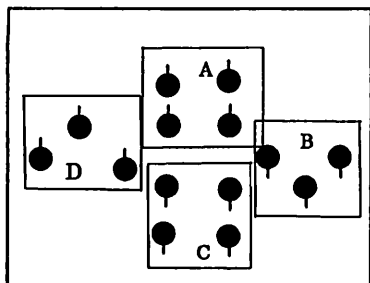


図 16. 徳島大学連 隊形 (16)

- Aブロックの四人とCブロックの四人が**変化した動き2**を踊る。踊り終わると静止。
- Bブロックの三人とDブロックの三人はポーズして静止。

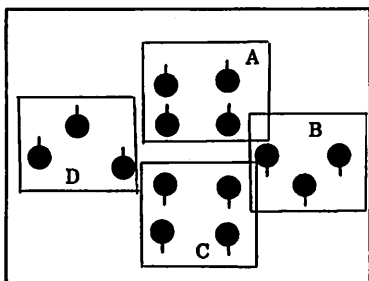


図 17. 徳島大学連 隊形 (17)

- Bブロックの三人とDブロックの三人が**変化した動き2**を踊る。
- Aブロックの四人とCブロックの四人はポーズして静止。

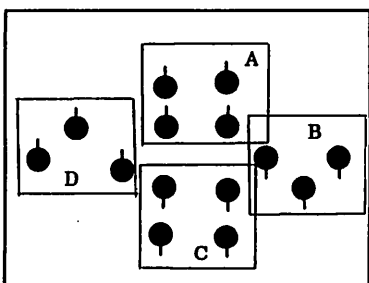


図 18. 徳島大学連 隊形 (18)

- 全員が揃って、**変化した動き2**を踊る。

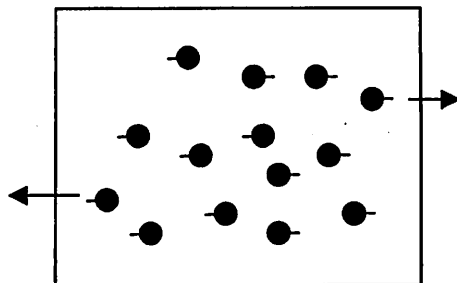


図 19. 徳島大学連 隊形 (19)

- 左右に分かれて、踊りながら退場。

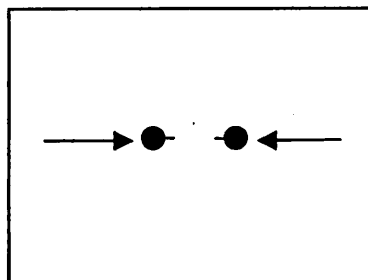


図 20. 徳島大学連 隊形 (20)

- 左側から一人、右側から一人が踊りながら入場。

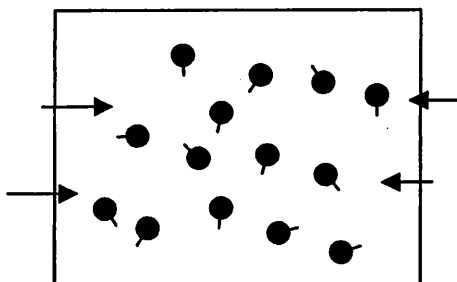


図 21. 徳島大学連 隊形 (21)

- 左右から全員が踊りながら入場。
- 自由に踊り、乱舞して終わる。

2) 四国大学連

① 女踊り

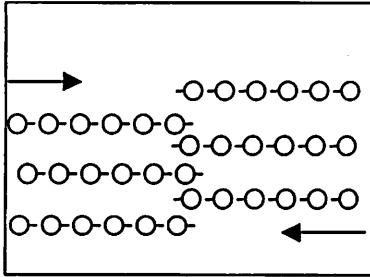


図 22. 四国大学連 隊形 (1)

- 五列縦隊で、左右からそれぞれ三列が揃って踊りながら入場。
- 三列が重なって並び六列になり、踊る。

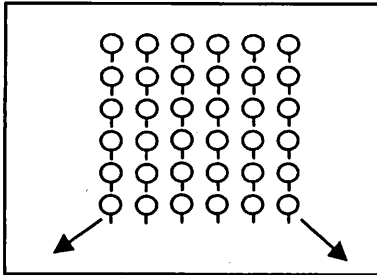


図 23. 四国大学連 隊形 (2)

- 全員が正面に向き、揃って踊る。続いて、全員が、踊りながら前後左右に群を拡げる。テンポが速くなる。

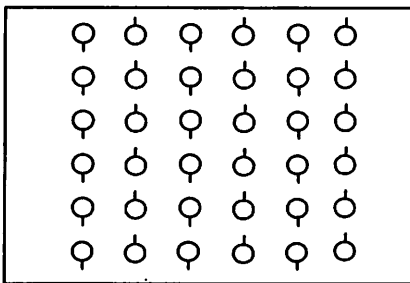


図 24 国大学連 隊形 (3)

- 偶数列は踊りながら右回りで後ろを向き、前向きの列と後ろ向きの列が縦に並ぶ。

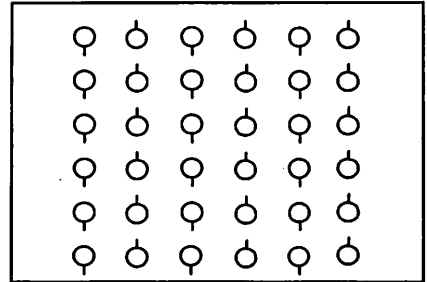


図 25. 四国大学連 隊形 (4)

- 奇数列は(座って)低くなって踊る。
- 偶数列は立ったまま踊る。

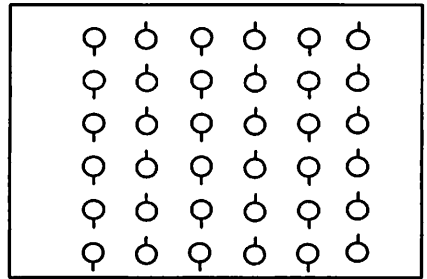


図 26. 四国大学連 隊形 (5)

- 偶数列が(座って)低くなって踊る。
- 奇数列は立ち上がって踊る。

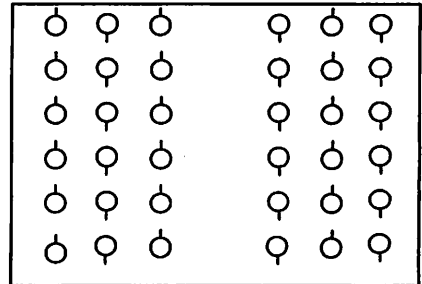


図 27. 四国大学連 隊形 (7)

- 偶数列は立ち上がり、全員が揃って踊る。
- 全員が 2 カウントで向きを前向き(後ろ向き)から後ろ向き(前向き)になる。
- 次の 2 カウントはそのまま踊る。
- これを繰り返す。

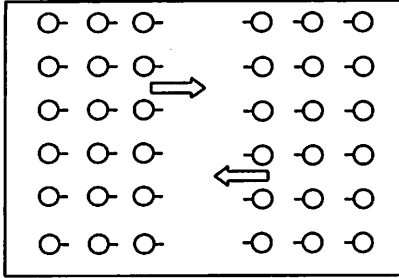


図 28. 四国大学連 隊形 (7)

- 3列目は踊りながら右に向き、2列目は左に向いて、左側の3列が中央に向いて踊る。
- 同様に、4、6列目は右に向き5列目は左に向いて、右側の3列が中央に向いて踊る。

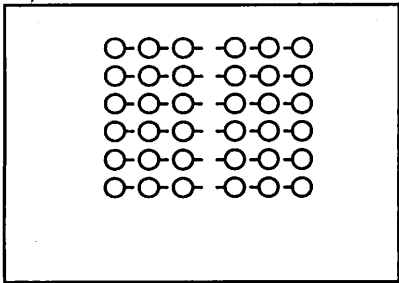


図 29 四国大学連 隊形 (8)

- 中央に前進して6列が近づく。

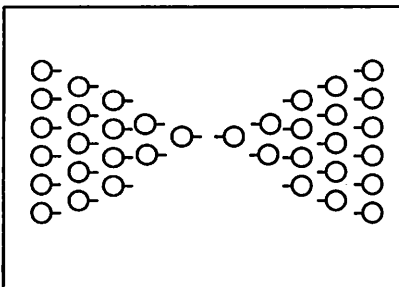


図 30. 四国大学連 隊形 (9)

- 踊りながら二つの向き合った三角形の隊形になり、踊り続ける。
- 全員座って（低くなり）手だけで踊る。音が止まる。

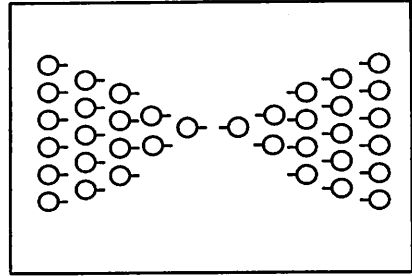


図 31. 四国大学連 隊形 (10)

- 両手を上に挙げ波のように後ろから順に高くなったり(立ち上がって)、低く(座って)なる。
- 無音

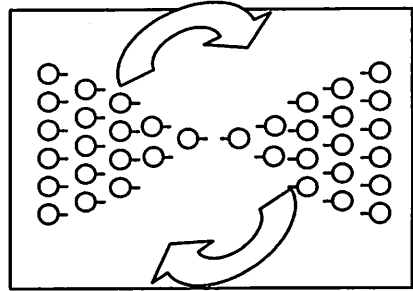


図 32 四国大学連 隊形 (11)

- 全員が立ち上がり、中央にいる三角形の頂点になる人を中心に、群が時計回りに回るように踊りながら移動。

② 女踊りと男踊り

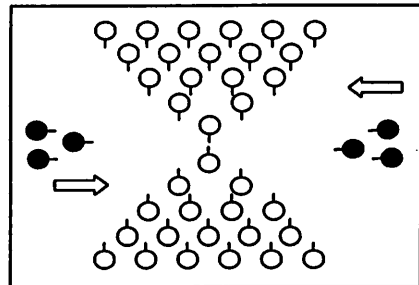


図 33. 四国大学連 隊形 (12)

- 女踊りの三角形の群が左右二つから上下二つになる。
- 男踊りの群が左右から踊りながら入

場。

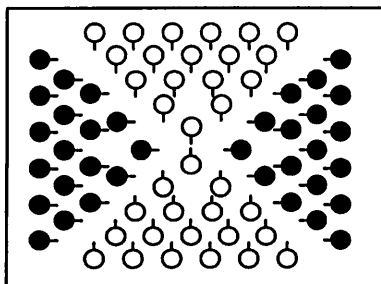


図 34. 四国大学連 隊形 (13)

- ▶ 三角形の群が四つ集まり、中央を向いて踊る。

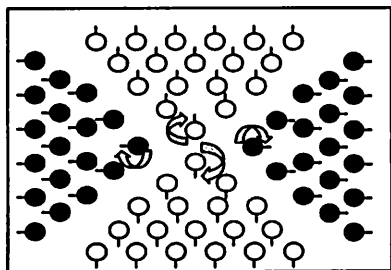


図 35. 四国大学連 隊形 (14)

- ▶ 踊りながら、各三角形のブロックの先頭、中央の人から反対向きになる。
- ▶ 次々と遅れて反対向きになる。

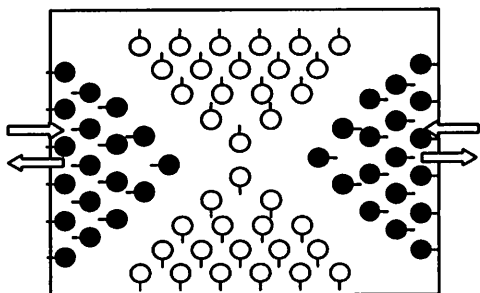


図 36. 四国大学連 隊形 (15)

- ▶ 女踊りは立ったまま、両手を上にしたポーズで静止。
- ▶ 男踊りは踊りながら前進し、群を外側に移動。

- ▶ 女踊りは立ったまま、両手を上にしたポーズでそのまま静止。
- ▶ 男踊りは踊りながら後退し、群を元に戻す。群が元に戻ると、最後に体を低くして両手を上に挙げてポーズをして静止。

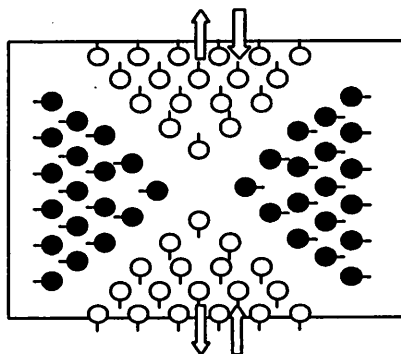


図. 37 四国大学連 隊形 (16)

- ▶ 男踊りは両手を上にし、低い姿勢のままのポーズで静止。
- ▶ 女踊りは踊りながら前進し、群を外側に移動する。
- ▶ 女踊りは踊りながら後退し、群を元に戻す。

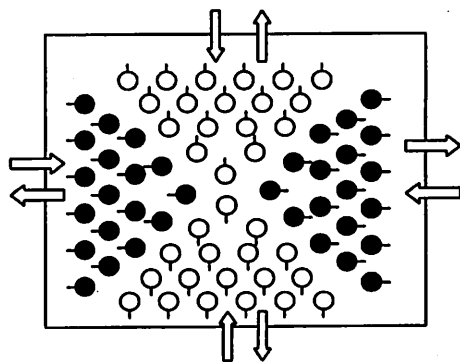


図 38. 四国大学連 隊形 (17)

- ▶ 女踊りは再び踊りながら前進し、男踊りも立ち上がって、踊りながら前進し、群を拡大。
- ▶ 女踊りも男踊りも踊りながら後退し、

群を縮小。

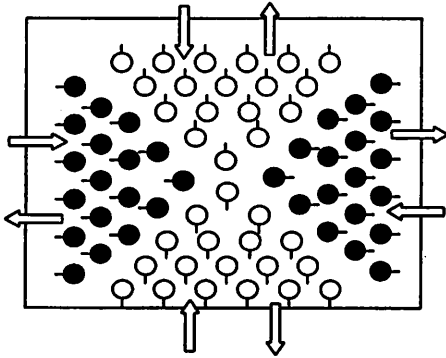


図 39. 四国大学連 隊形 (18)

- 四つの三角形になった群がそれぞれの前方に踊りながら進み、群を拡大・収縮させる。
- 全員が右回りに回って隊形を崩し、踊りながら図.40 の隊形に移動。

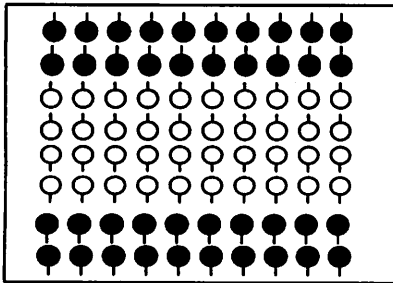


図 40. 四国大学連 隊形 (19)

- 女踊りが中側、男踊りが外側になるように、1 列から 4 列までは前向きに、5 列から 8 列までは後ろ向きになって並び、踊る。
- 掛け声とともに静止して、男踊りの 1, 2 列と 7, 8 列は腰を落として低くなり、静止。
- 女踊りは高い姿勢で両手を上に挙げたポーズで静止。

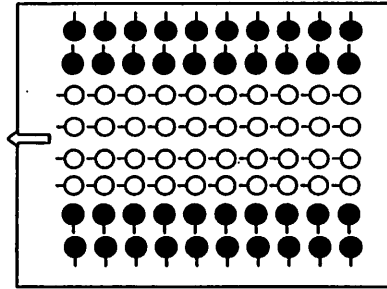


図 41. 四国大学連 隊形 (20)

- 男踊りは全員立ち上がって踊る。
- 女踊りは左方に向かって踊りながら前進して退場する。

③ 男踊り

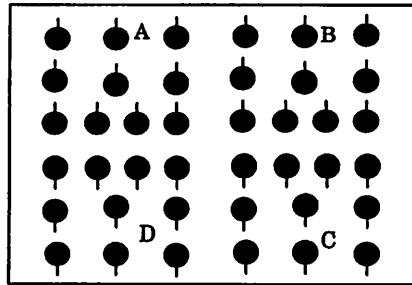


図 42. 四国大学連 隊形 (21)

- 男踊りは踊りながら移動し、A, B, C, D の四つのブロックに分かれて踊る。
- A, B のブロックは後ろ向きになり、C, D は正面向きで踊る。

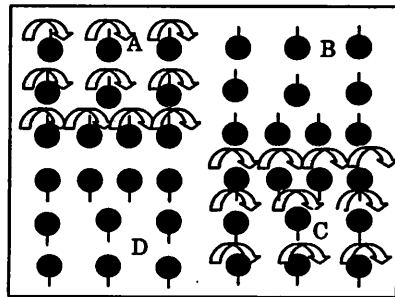


図 43. 四国大学連 隊形 (22)

- A ブロックと C ブロックは、カウント 8 でその場で右回りしながら踊り、最後に両手を前後に開くポーズをし

て静止。

- BブロックとDブロックは低い姿勢で、両手を前後に開き、静止。

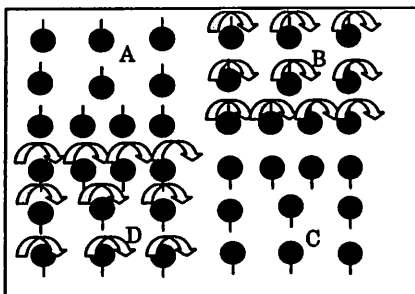


図 44. 四国大学連 隊形 (23)

- AブロックとCブロックは低い姿勢で、両手を前後に開き静止。
- BブロックとDブロックはカウント8でその場で右回りしながら踊り、最後に両手を前後に開くポーズをし静止。

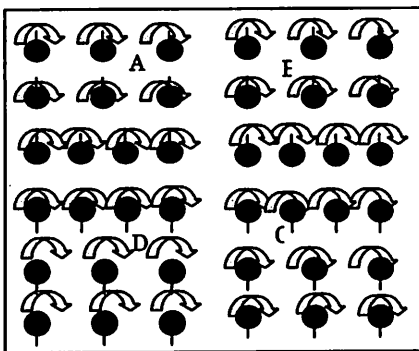


図 45. 四国大学連 隊形 (24)

- 全員がカウント8でその場で右回りしながら踊り、最後に両手を前後に開き、低い姿勢になって静止。
- 同じ動きの一まとまりを繰り返す。

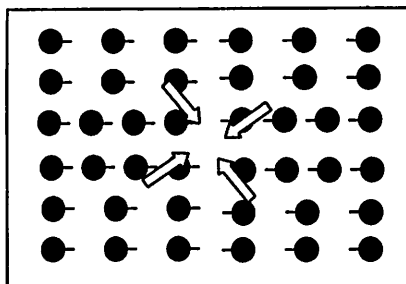


図 46. 四国大学連 隊形 (25)

- AブロックとDブロックは全員右方を向き、BブロックとCブロックは全員左方を向き、A、DブロックとB、Cブロックが向き合っテ踊りながら、中央に寄る。
- テンポ：速くなる。

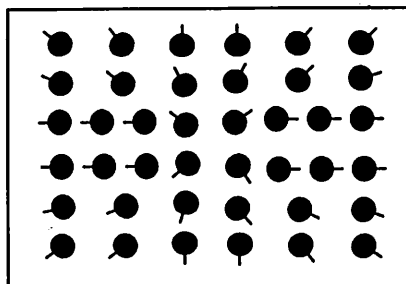


図 47 四国大学連 隊形 (26)

- それぞれが向きを変えて、外に向けて踊る。

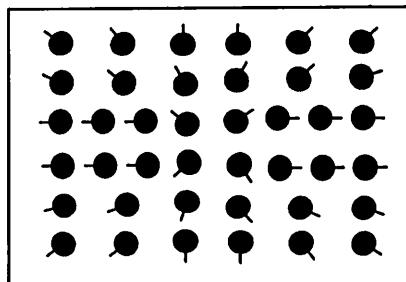


図 48. 四国大学連 隊形 (27)

- 姿勢を低くして大きく片足を前に出し、片手を前に出す。その手を引き上げる時に姿勢を高くして、波が打

ち寄せるように踊る。

- 交互に高くなったり、低くなったりする。：変化した動き
- 最後に掛け声とともに全員が低い姿勢で片手を前に突き出すポーズで静止。

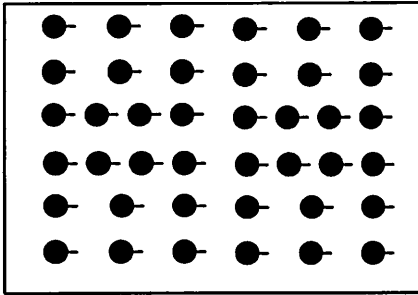


図 49. 四国大学連 隊形 (28)

- 全員が立ち上がり、右方を向き、揃って踊りながら退場。

四国大学連の踊りは、①「女踊り」その1、②「女踊り」と「男踊り」その1、③「男踊り」その1、④「男踊り」その2、⑤「女踊り」その2、⑥「女踊り」と「男踊り」その2、⑦「男踊り」その3、⑧「その他の踊り」、⑨「女踊り」と「男踊り」その3から構成されているが、紙面の都合で④以下を省略した。

3) 徳島文理大学連

① 女踊り

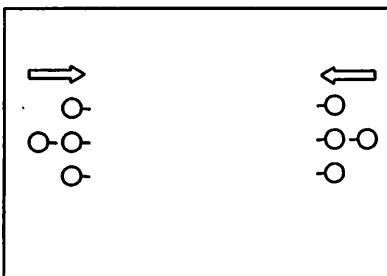


図 50. 徳島文理大学連 隊形 (1)

- 両側から前列三人横隊、後列一人で

踊りながら入場。

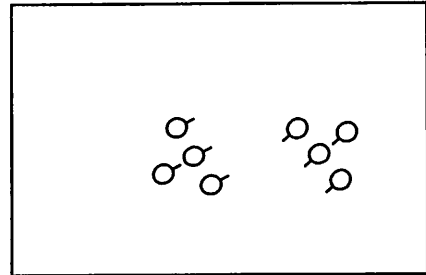


図 51. 徳島文理大学連 隊形 (2)
➤ 全員進行方向を斜めに変え、四歩でジグザグに進む。：変化した動き 1

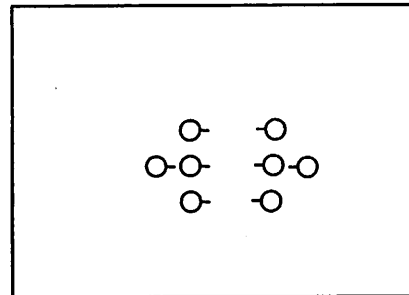


図 52. 徳島文理大学連 隊形 (3)
➤ 斜め方向に二歩(カウント4)進み、上体を前傾させ、両手を上に挙げて静止(カウント4)。：変化した動き 2を繰り返す。

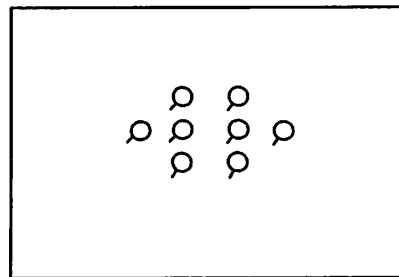


図 53. 徳島文理大学連 隊形 (4)
➤ 踊りながら、二つの群が近づき両手を上に挙げたポーズで静止。

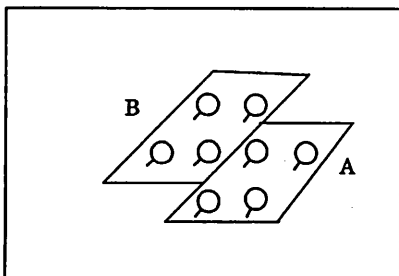


図 54. 徳島文理大学連 隊形 (5)

- A ブロックが踊り始める。カウント 8 で四歩進み、次のカウント 4 で片足を軸にした (ピボット) 右回りをし、最後のカウント 4 で静止。: **変化した動き 3** を踊る。
- B ブロックは両手を挙げて静止し (カウント 12)、A ブロックが静止すると **変化した動き 3** を踊り始める。A ブロックはその間、静止。
- B ブロックが静止 (カウント 4) すると、A, B 両ブロックが同時に **変化した動き 3** を踊る。

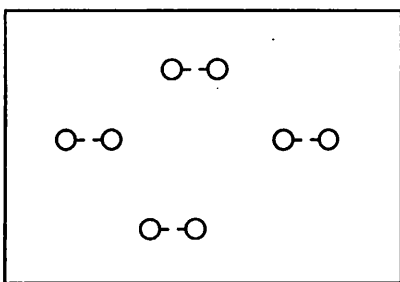


図 55. 徳島文理大学連 隊形 (6)
踊りながら移動し、二人が向き合って踊る。

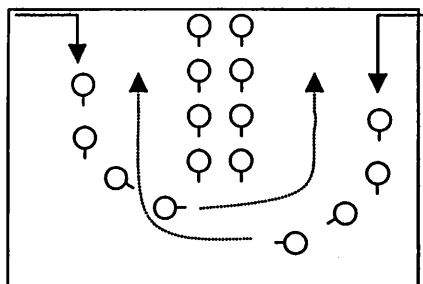


図 56. 徳島文理大学連 隊形 (7)

- 踊りながら移動し、中央に二列縦隊になり、両手を挙げて静止。(前列は低い姿勢で後列は高い姿勢)
- 両側から一列縦列で各 4 人が、両手を横に広げて、1 カウント一歩のステップで入場。矢印のとおりに進んで、中央で踊り始めた二列の両脇に並ぶ。

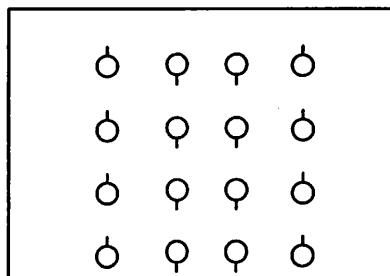


図 57. 徳島文理大学連 隊形 (8)

- 1 カウント一歩でステップを踏み、両手を広げたままで左右交互に両手を上下する。
- 一列目と二列目、三列目と四列目がステップを踏みながら接近。

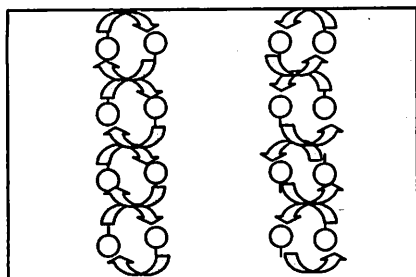


図 58. 徳島文理大学連 隊形 (9)

- 左側に列は二人組で右手と右手をつなぎ、その手を軸に右回りする。右側二列は左手をつなぎ、左回りする (カウント 8)。全員、手を離し、右回りに回転し、向きを変える (カウント 4)。
- 次に左側二列は左手と左手をつなぎ、その手を軸に左回りする。右側二列は右手をつなぎ右回りする (カウント 8)。全員、手を離し、後ろ向きになっている者だけが右回りで正面を向く。: **変化した動き 4**

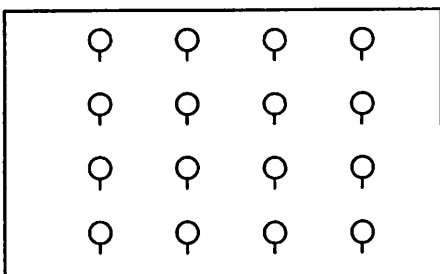


図. 59. 徳島文理大学連 隊形 (10)

- 全員、足を止めて、両手を下から上方に挙げる。
- 上に挙げた両手を振り、踊り始める。

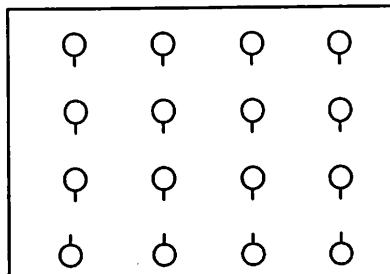


図 60. 徳島文理大学連 隊形 (11)

- 各列の先頭一人が後ろ向きになり、後ろの三人と向き合って踊る。

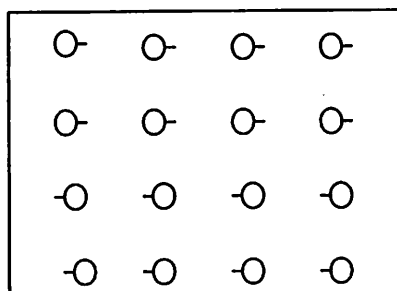


図 61. 徳島文理大学連 隊形 (12)

- 各列の先頭は踊りながら、左向きになり、前から二列目は右に向き、前の二列が左方に向く。
- 前から三列目と四列目は踊りながら左に向き、二列が右方に向く。

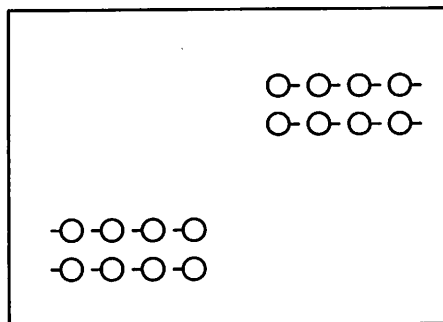


図 62. 徳島文理大学連 隊形 (13)

- 前の二列は踊りながらその場で足踏みして、踊る。
- 後の二列は踊りながら右方に前進。

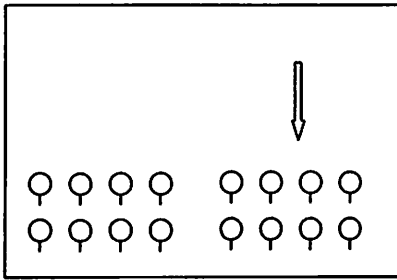


図 63. 徳島文理大学連 隊形 (14)

- 後の二列は踊りながら右に向き、四列横隊になり前進。
- 前の二列は左に向き、四列横隊になり、その場で踊る。
- 前の二列と後ろの二列が並び、全員が正面を向いて踊る。

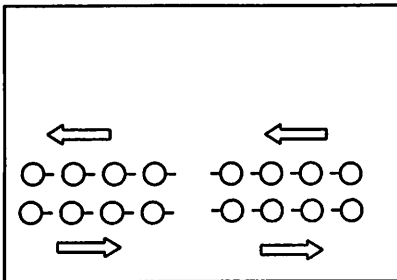


図 64. 徳島文理大学連 隊形 (15)

- 右側の四列 8 人が右を向き、左側の 8 人と向き合って踊る。
- 右側の 8 人は前進し、左側の 8 人は後退してスキップのステップで踊る。
- 右側の 8 人は後退し、左側の 8 人は前進してスキップのステップで踊る。
- 交互に前進、後退を繰り返す。

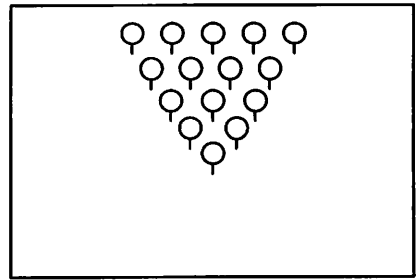


図 65. 徳島文理大学連 隊形 (16)

- 踊りながら移動して三角形の隊形に移動。
- 全員が両手を上に挙げたままで、一度、静止する。再び、踊り始める。

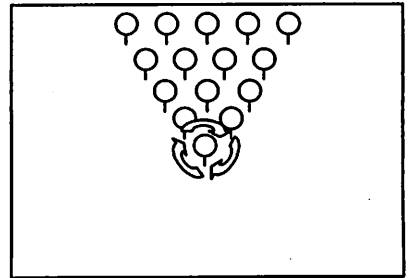


図 66. 徳島文理大学連 隊形 (17)

- 全員が踊りながら右に三分の一回転し、その方向を向いて踊る。
- 再び、右に三分の一回転した方向を向いて踊る。
- 最後に、右に三分の一回転して正面を向き踊る。変化した動き 5

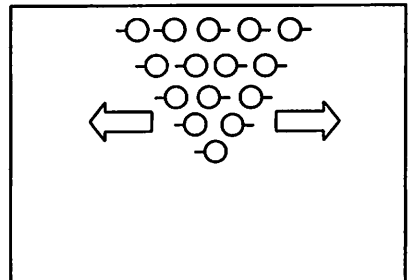


図 67. 徳島文理大学連 隊形 (18)

- 掛け声とともに静止（前列は体を低

くし、両手を下げ、後列になるほど高い姿勢で)。

- 前列は立ち上がり、踊りながら左右に分かれ、退場。

② 男踊り

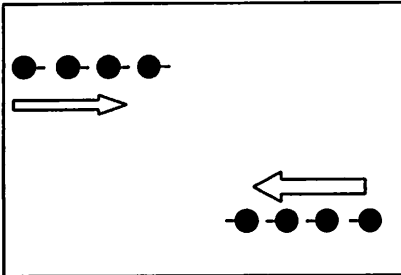


図 68. 徳島文理大学連 隊形 (19)

- 左右から四人縦列で踊りながら入場。

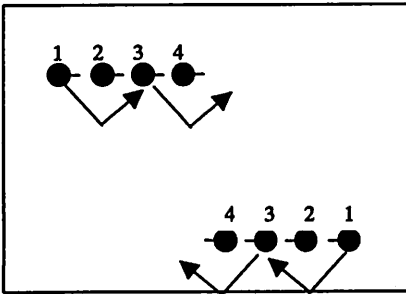


図 69. 徳島文理大学連 隊形 (20)

- 各列の、踊り手 1 と 3 は大きく横に足を踏み出して重心を移動し (カウント 2)、前の踊り手 2 と 4 の横に並ぶ。次の足も大きく踏み出し、前の踊り手 2 と 4 の前に入る (カウント 2) : **変化した動き 1**
- 次に 2 と 4 が **変化した動き 1** を踊り、1 と 3 の前に入る。
- この **変化した動き 1** を繰り返して踊る。

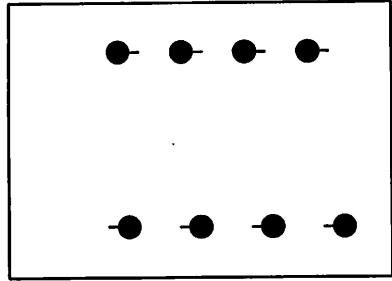


図 70. 徳島文理大学連 隊形 (21)

- それぞれの進行方向を向いたままで踊る。

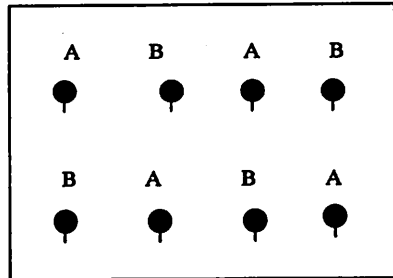


図 71. 徳島文理大学連 隊形 (22)

- 左回りで正面を向き、「A の四人」は **変化した動き 2** を踊る。
- 「B の四人」は正面を向き、低い姿勢で両手を挙げたポーズで静止。
- 「A の四人」は低い姿勢で両手を挙げたポーズで静止。
- 「B の四人」は **変化した動き 2** を踊る。
- 全員が低い姿勢で揃って静止。その後、立ち上がって踊りながら隊形を崩す。

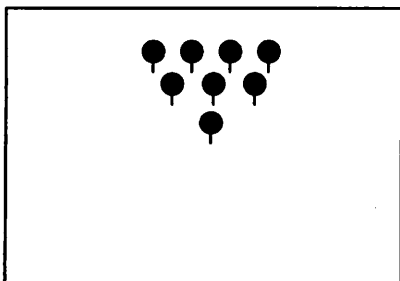


図 72. 徳島文理大学連 隊形 (23)

- 二列の隊形から踊りながら移動して、三角形の隊形になり、全員が正面を向いて踊る。

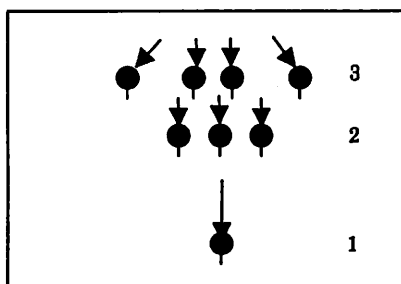


図 73. 徳島文理大学連 隊形 (24)

- 先頭の一人 1 が前に走り出て、低い姿勢で両手を前後に開き静止。
- 続いて、2 の三人が、1 と同様に走り出て、静止。
- さらに、3 の三人が、同様に走り出て、静止。
- 最後に、全員が跳びながら一回転し、両手を前後に開いて低い姿勢で静止。

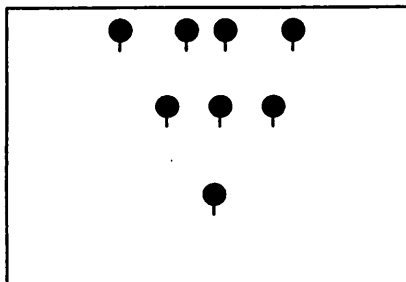


図 74. 徳島文理大学連 隊形 (25)

- 低い姿勢のまま手で踊る。

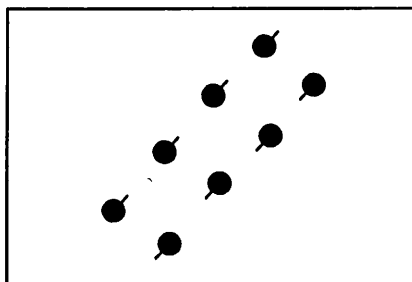


図 75. 徳島文理大学連 隊形 (26)

- 立ち上がって、踊りながら移動し、斜め二列になり、踊る。

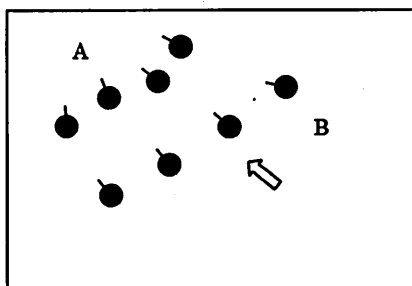


図 76. 徳島文理大学連 隊形 (27)

- A ブロックは斜め後ろ向きになり、両手で頭を抱え、左斜め後方に逃げるような動作で前進する。
- B は A を追うような動作で両手を挙げて進む。

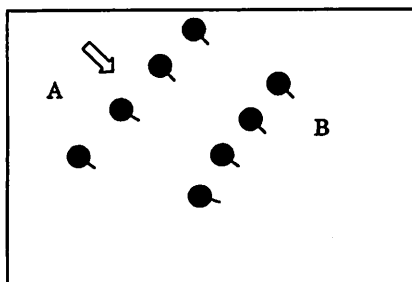


図 77. 徳島文理大学連 隊形 (28)

- A は体を起こして向きを変え、B を追うような動作で両手を挙げて進む。

